

## 平成 29 年度徳島県立中央病院県民公開講座で特別講演を行いました (2017/10/21)

テーマ：南海トラフ地震、がん診療と大規模災害  
場所：徳島県立中央病院（徳島県徳島市）

2017年10月21日(土)、徳島県徳島市の徳島県立中央病院において「平成29年度徳島県立中央病院県民公開講座」が開催され、当研究所の佐々木宏之助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が徳島県内の医療従事者、がん患者さんを対象に、「がん診療と大規模災害～東日本大震災の経験から、徳島の未来に貢献できることを考える～」と題して災害時のがん診療の課題・がん患者さんの避難生活の留意すべき点などについて特別講演を行いました。

徳島県立中央病院の県民公開講座は、例年、第一部を「糖尿病」、第二部を「がん」に焦点を当て、講演や健康相談を催してきました。今年度、第二部では、将来予想されている南海トラフ地震を念頭に、「その時私たちはどうする？災害時のがん医療」をサブテーマとして識者からの講演を拝聴しました。はじめに徳島県庁保健師の傳平先生から徳島県の災害医療の取り組みについて総論的なお話を聞き、次に徳島県立中央病院救急科の三村先生から災害時の災害拠点病院の役割について、最後に特別講演として佐々木助教が自らの災害時のがん診療経験も含めた災害時のがん診療にまつわる課題と対策、がん患者さんの平時の備え・災害時対応について講演しました。


佐々木助教は初めに、巨大津波災害が起きたら日常生活はどう変わるのか、東日本大震災被災地の画像・映像、また当研究所制作の津波シミュレーションモデルを供覧したうえで、インフラに高度に依存した現代の日常生活が立ちゆかなくなることを説明しました。そして、自らの消化器外科医としての経験も踏まえ、巨大津波災害の発生後、がん診療の何に困り、課題として何が浮かび上がったのか、がん患者が避難生活を送るにあたりどのような点に気をつけ、平時に何を準備すべきかについて、事例も交えて説明しました。会場に集まった聴衆は、将来津波災害が起こるかもしれないことは頭で理解していても、現実のものとして受け入れられていませんでした。東日本大震災時の南三陸町の被災画像や映像を見て、実際に病状が進行してしまったがん患者さんの実例を聴くことで、津波災害後の生活変容を身近な事として受け入れることができました。講演冒頭のクイズでは、非常用持出袋のなかにお薬手帳のコピーを入れている方は皆無でしたが、講演最後では全員がそれを実践すべきだと真剣なまなざしで回答していました。

東日本大震災時にはがん診療が遅延し病状が進行した患者さんや、抗がん剤治療中の被災で不安を抱えながら避難所生活を送った患者さんが少なからずいました。がん診療の中心となるがん診療連携拠点病院は災害拠点病院を兼ねていることも多く、発災直後はがん診療が後回しになる傾向にあります。1～2週間の受診の遅れはたいていのがん診療において問題とならないものの「月の単位では未受診のままにしない」「避難生活では重労働などの無理をせず保健師に自らの病状を説明しておく」など、がん患者さんの「自助」も大事であることを佐々木助教は強調しました。

**がん患者さんの災害への備え**

1. **がん治療についての情報を持っておく**

- ①がんの病名、②現在行っている治療内容、③抗がん剤の名前、前回の治療日、血液検査のデータ(新しいもの)があるとよいです。
- 緊急時の治療について、ふだんから医師に確認しておきます。①1～2週間程度遅れても支障のない治療なのか、日時をしっかり守らないと行けない治療なのか、②発熱時などどのような対応を取るのか、などを相談しておきます。
- かかりつけ病院の連絡先をひかえておきましょう。




がん患者さんの災害への備え

**がん患者さんの災害時の対応**

1. **急ぐ治療と急がない治療を知りましょう。**

- 手術、放射線、抗がん剤による治療は、**がん、大腸がん、肺がん**などたいていのがんの場合、1～2週間程度遅れても病状が進行することはありません。災害直後には、**まず自分の生活を整えること**を優先しましょう。
- ただし、「白血球など血液に関係した増傷」「悪細胞増殖」その他の特殊な腫瘍では、治療を継続して行う必要があります。医療機関などに必ず相談しましょう。
- 2週間以内に前薬からの抗がん剤治療を受けた患者さんや、「白血球が少ないので注して下さい」といわれている患者さんでは、感乗症に注意しましょう。**38℃以上の発熱がある場合は、病院を受診**しましょう。



がん患者さんの災害時の対応



佐々木助教（右から2人目）と座長の広瀬敏幸徳島県立中央病院災害医療センター長（最右）、演者の三村誠二徳島県立中央病院救急科部長（左から2人目）